

## 一般国道112号 霞城改良事業

# 「山形城三の丸堀跡」を発掘！

- ① 6月25日（木）に山形城三の丸と判断される堀跡が発掘されました。
- ② 当該箇所は、これまでの調査や現存する資料、三の丸跡調査からとり残されていた箇所であり、今回の発掘調査で山形城三の丸跡の全容解明の足がかりになることが期待されています。
- ③ 発掘場所は、山形県山形市旅籠町一丁目 地内です。

### 【参 考】

- ・ 国土交通省山形河川国道事務所は、山形市内の渋滞解消と交通安全対策を進めるため一般国道112号 霞城改良事業（延長1,300m）を進めています。
- ・ 事業箇所が、「山形城三の丸」内に位置していることから、昨年度に引き続き、文化財保護法に基づき発掘調査を実施していました。

### 発表記者会：山形県政記者クラブ

〈問い合わせ先〉	
(財)山形県埋蔵文化財センター	
〒999-3161 上山市弁天二丁目15-1	TEL：023-672-5301(代)
調査課長補佐	いとう くにひろ 伊藤 邦弘
専門調査研究員	さたけ こうじ 佐竹 弘嗣

〈問い合わせ先〉	
国土交通省 東北地方整備局 山形河川国道事務所	
〒990-9580 山形市成沢西四丁目3-55	TEL：023-688-8421(代)
建設監督官	あんさい としひこ 安齋 俊彦（内線503）

## (1) 【一般国道112号 霞城改良の概要】

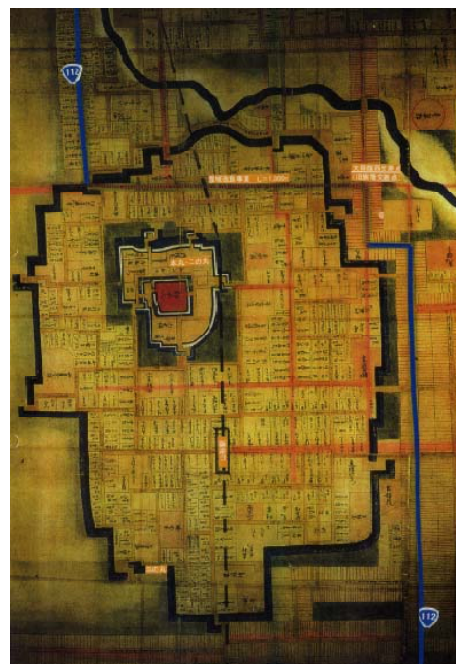
- 山形市内を通過する一般国道112号は、幅員が狭く、主要渋滞箇所の文翔館西交差点(最大渋滞長1,950m)があり、主要幹線道路としての機能が低下しています。また平成14年度に供用した東北中央自動車道山形中央ICに直結していることから、山形市内の玄関口として交通量の増加が見込まれます。
- 霞城改良事業は、山形市内の一般国道112号を現在の2車線から4車線に拡幅して、交通容量を確保し、歩道も整備し安全な歩行者空間を確保するため、平成14年度から事業を進めています。
- 平成19年度には、文翔館西交差点の暫定供用を図り、渋滞緩和と歩行者交通の安全対策を進めています。現在は、電線共同溝の工事を進めています。

## (2) 事業概要

- ・起 点 山形県山形市七日町一丁目
- ・終 点 山形県山形市城北一丁目
- ・延 長 L=1.3km
- ・道路種別 第4種第1級
- ・計画車線数 4車線
- ・計画幅員 W=31m  
(W=30m 七日町一丁目から文翔館西交差点まで)
- ・設計速度 40km/h  
(60km/h 七日町一丁目から文翔館西交差点まで)

## (3) 事業経緯

- ・事業着手 平成14年度
- ・用地着手 平成15年度
- ・工事着手 平成19年度



「最上家在城諸家中町割図」

{元和8(1622)年頃} に加筆

## (4) 今回調査箇所、霞城改良平面図



## 【山形城三の丸】

所在地 山形市霞城町  
 築城者 (最上義光)  
 築城時期 近世初期  
 史料 山形城下絵図

## 概要

山形市のほぼ中心街を囲繞する。三の丸の堀と土塁が建造されたのは16世紀の最末期。三の丸は東西十四町五十間二尺(約1617m)、南北十四町十五間(約1553m)にわたる。現在は山形市十日町の歌懸稻荷神社境内にある土塁と堀などを残して破壊されている。

三の丸には七日町大手口・横町口・十日町口・八日町吹張口・飯塚口・小田口・下条口・肴町口・小橋口・鯨口の11の出入り口があった。横町口付近の石垣の一部が、十日町の山形保健センター敷地内にある。下部は石垣で、その上に土をもっており、比高差は約3メートル。底辺部の東西は23メートル。南北は20メートル。

三の丸までが最上家臣団の居住空間であり、11の門の外に町屋敷が広がっていた。三の丸は中央部の本丸から見た場合、東側一帯が広いのに対して、西側は狭かった。山形城大手口が東側であり、町民の居住空間の大半が三の丸の東と南側であったことと密接に関係する。(参考 誉田慶信)

## 【平成19年度試掘調査結果】

- ① 遺跡名 山形城三の丸跡
- ② 調査日 平成19年11月14日
- ③ 調査主体 山形県
- ④ 調査方法 重機で調査トレンチを掘り、壁面と底面を精査し堆積土層と遺構遺物を確認。
- ⑤ 調査面積 25.5m<sup>2</sup>
- ⑥ 調査結果
  - ・種別 城館跡(古代・中世～)
  - ・遺跡環境 市街地にあたり、宅地・商店等になっている。三の丸土塁内部に位置すると推定される。
  - ・検出遺構 溝跡 土壇 柱穴
  - ・出土遺物 土師器片 あかやき土器片 須恵器甕片 近世陶磁器類
- ⑦ 所見
  - ・試掘の結果各トレンチから、近世以前の遺構が検出された。あわせて、古代・中世・近世以降の遺物が出土し、時期的に複合したエリアと想定される。試掘調査を実施した三の丸内部は、後世の攪乱も認められたが、盛り土や表土下に良好に遺構が残されているものと考えられる。  
(山形県教育委員会)

# 【平成20年度 発掘調査】

## 山形城三の丸跡発掘調査説明会資料

2008年10月25日(土)

財団法人山形県歴史文化財センター

調査要項	
遺跡名	山形城三の丸跡(やまがたの丸跡)
所在地	山形県山形市旅籠町
遺跡番号	中世城跡遺跡番号201002
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	一般国道112号環状改良事業
発掘調査期間	平成20年6月16日～平成20年10月31日
調査面積	1,700㎡
遺跡種別	集落跡・城跡
時代	奈良・平安時代・中世・近世
遺構	竪穴住居跡・竪立柱建物跡・柱穴・溝跡・土坑
遺物	縄文土器・須恵器・土師器・陶器・磁器・瓦
調査担当	調査課長 長橋 至 課長 菊池 伊藤邦弘(調査主任) 主任調査員 佐竹弘嗣 調査員 橋本 尚
調査指導	山形県教育庁文化遺産課
調査協力	山形市教育委員会 山形県教育庁村山教育事務所



遺跡位置図 (1:50,000)



7区調査風景

### 1 はじめに

今年度、山形県歴史文化財センターによる山形城三の丸跡の発掘調査は、春日町と旅籠町の2か所で行われました。この旅籠町の調査は、一般国道112号環状改良事業に伴う緊急発掘調査です。

調査区は、東西約1.6km、南北約1.8kmに及ぶ広大な三の丸の北東部に位置します。南東には樋口、北西には小樋口があります。

調査は、地域の皆様の生活に支障がないように調査区を9ヶ所に分割して行いました。始めに、遺跡を覆う表土を重機で掘削した後、手作業により遺構が見えるところまで少しずつ土を削りました。そうして見つかった柱穴や溝などを埋まった土を良く観察し、写真や図面に記録しながら掘り進めました。

1区画を約2週間かけて調査し、一つの区画の調査が終わると埋め戻して、次の調査区に移ることを繰り返しました。

この調査で得られた記録類や遺物は、山形県歴史文化財センターでの整理作業の後、発掘調査報告書としてまとめられ、平成21年度に刊行される予定です。

### 2 各区の遺構

今回の調査で見つかった遺構には、竪立柱建物跡・竪穴住居跡・柱穴・土坑・溝跡などがあります。現在までに終了した8区画での遺構数は、約400基に及びます。

1区では、柱穴が西側に集中して見つかりました。ここには竪立柱建物があったようです。一辺約1.2mの石組の遺構もありました。

2区でも柱穴が数多く見つかりました。



1区石組遺構

いますが、建物の形はわかりませんでした。直径2m前後の土坑や、たくさんの石を投げ込んだ穴も見つかりました。

4区には全体の規模は不明ですが、3棟の竪立柱建物跡がありました。3棟ともほぼ同じ場所にあり、建て替えられたようです。建物跡周辺の土坑や溝には、多量の灰土や炭を含むものが多く、火災にあったのかもしれない。

5区は遺構の残りが乏しかったのですが、大きな土坑と溝が特徴的でした。

6区では奈良・平安時代の竪穴住居跡が2棟見つかりました。同じ時代と考えられる溝からも土師器・須恵器などの土器が出土しました。また、別の溝からは縄文土器も出土しました。



6区竪穴住居跡

7区でも奈良・平安時代の遺構や遺物が見つかりました。西側の遺構の多くは、近世の柱穴や土坑でした。その中の石積み遺構には、たくさんの瓦が混じっていました。



7区で見つかった柱穴

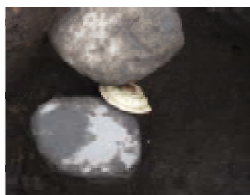
8区からは柱穴と大きな土坑が見つかりました。長軸約3m、短軸約1.5mの楕円形の土坑には灰や炭・焼土が詰まっていた。



8区土坑(焼土と炭が多量に入る)

9区では、柱穴や瓦が出土していることか

ら、建物があったと考えられます。また、大きな土坑を数多く検出しました。その中に9区の柱穴から出土した陶器は、8区で見つかった土坑と同じように、焼土と炭が入ったものを多く見受けました。これらの遺構から、この地区が火災にあったことも推定されます。



### 3 出土遺物

今回の調査で出土した遺物には、縄文土器・土師器・須恵器・陶器・磁器・瓦・石製品・金属製品・木製品・古銭などいろいろな種類があります。

縄文土器は数点しか出土していませんが、形の特徴から約3000年前の縄文時代晩期の土器のようです。

土師器と須恵器は、古墳時代から使われてきた素焼きの土器です。6区・7区から多く出土しています。作り方や形の特徴から、約1200～1300年前の奈良・平安時代に使われた土器です。

陶器や磁器は、約400年前の江戸時代のもものが多くを占めます。愛知県瀬戸、佐賀県唐津などの国産陶器や中国産の青磁も出土しています。

石製品には、砥石や石鉢があります。金属製品では、釘や小刀が見つかりました。

### 4 まとめ

今回の調査では、山形城三の丸に伴う竪立柱建物跡や土坑など数多くの遺構が見つかりました。今後、各調査区の遺構の種類や分布状況を検証することにより、三の丸の内部構造の一端を知ることができると考えられます。また、奈良・平安時代にさかのぼる遺構と遺物からは、当時の集落跡の存在も明らかになりました。特に平安時代の瓦の出土は、当時の役所や寺院、あるいは瓦生産と関連する興味深い資料と言えます。





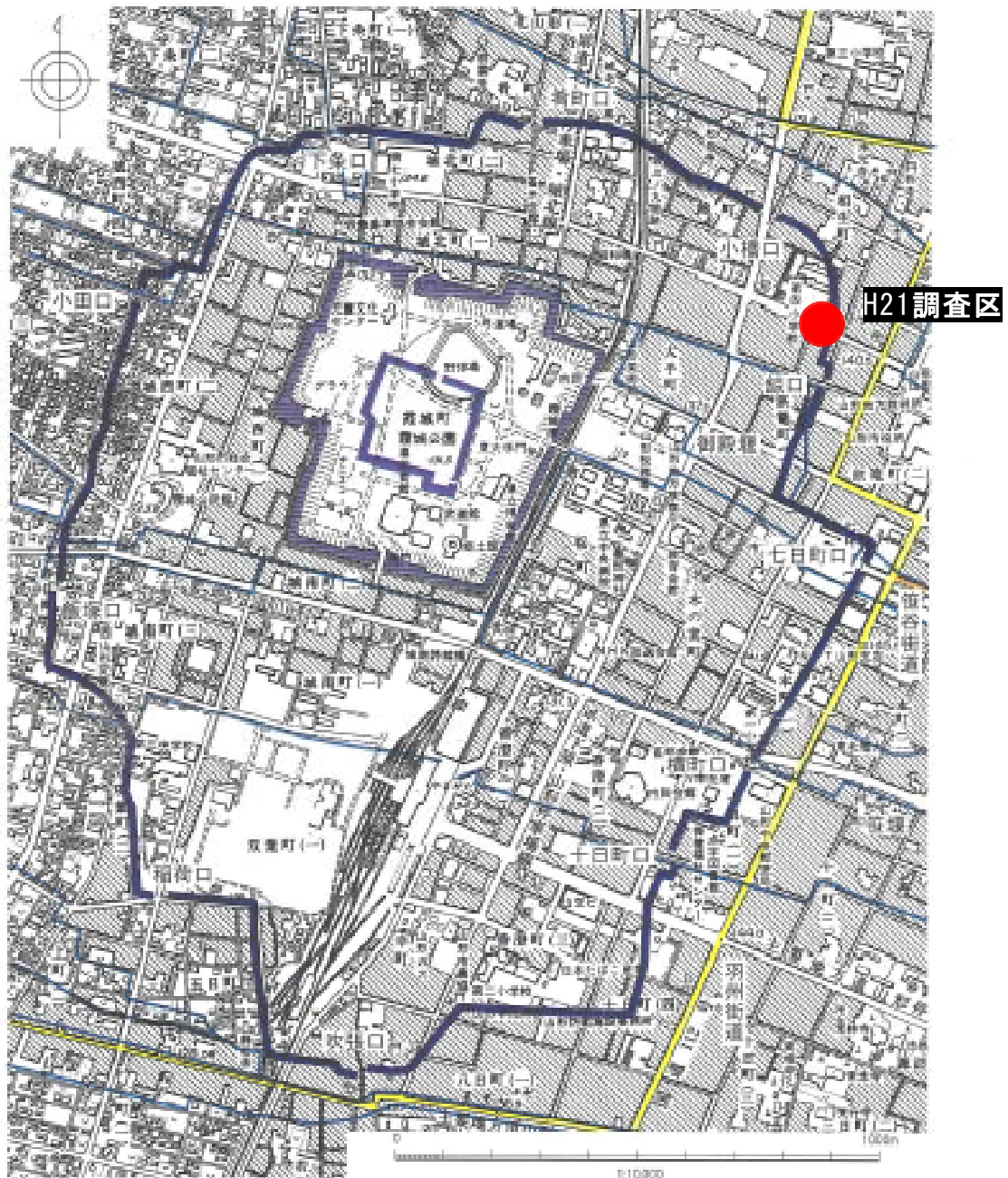
# 【平成21年度調査状況】



平成21年度 調査状況



山形城三の丸の堀跡と考えられる調査箇所





凡例	
	本丸堀
	二の丸堀
	三の丸堀
	羽州街道
	笹谷街道
	堀(現在)

図 山形城三の丸堀跡推定線（山形市教育委員会）